

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-220936

(43)Date of publication of application : 04.09.1990

(51)Int.Cl.

B60N 2/32

(21)Application number : 01-038442

(71)Applicant : MAZDA MOTOR CORP

(22)Date of filing : 20.02.1989

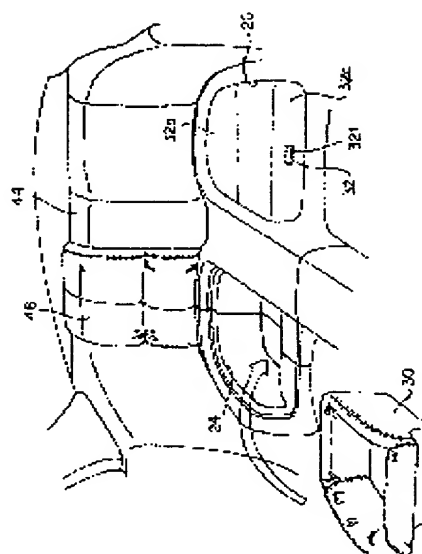
(72)Inventor : KAWACHI YUKIHISA  
NAKAMUTA YASUSHI

## (54) REAR SEAT CONSTRUCTION FOR AUTOMOBILE

## (57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a rear seat which can be selectively used for passenger and/or storing goods by constituting the rear seat with an opening/closing cover or a seat cushion and a pair of recess into which either of them can be selectively fixed.

CONSTITUTION: An automobile rear seat 10 consists of an opening/closing cover 32 or a seat cushion 30 and a pair of recesses 24, 26 into which either of them can be selectively fixed. When an automobile is used for a total of four passengers, two in the front seat and two in the back seat, the seat cushions 30 are fixed into the recesses 24, 26, and when used for two passengers, opening/ closing covers 32 are fixed into the recesses 24, 26. This enables to obtain an automobile rear seat which can be selectively used for passengers and/or storage of goods.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平2-220936

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>  
B 60 N 2/32

識別記号 庁内整理番号  
7049-3B

⑭ 公開 平成2年(1990)9月4日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 自動車用後部シート構造

⑯ 特 願 平1-38442

⑰ 出 願 平1(1989)2月20日

⑱ 発 明 者	河 内 恭 久	広島県安芸郡府中町新地3番1号	マツダ株式会社内
⑲ 発 明 者	中 牟 田 泰	広島県安芸郡府中町新地3番1号	マツダ株式会社内
⑳ 出 願 人	マ ツ ダ 株 式 会 社	広島県安芸郡府中町新地3番1号	
㉑ 代 理 人	弁理士 大塚 康徳	外1名	

明 細 書

1. 発明の名称

自動車用後部シート構造

2. 特許請求の範囲

開閉蓋またはシートクッションが選択的に取り付けられる一対の凹部を備え、自動車が前席2人後席2人の計4人乗り用として使用される際には、前記凹部にシートクッションが取り付けられて、後席が規定され、2人乗り用として使用される際には、開閉蓋が取り付けられて、収納箱が規定される事の特徴とする自動車用後部シート構造。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明は、自動車用後部シート構造に関する。

〔従来技術〕

従来より、後席に多機能を付与する技術として、例えば、実開昭62-194136号公報に示されるように、後席のシートクッション内部に、格納空間部を有する構成が知られている。詳細には、この従来公報によれば、左右の前席間にコンソールボックスを配し、この前席のシートバックが後席側に略水平状に後倒し、この後倒した両シートバックと、前記コンソールボックス及び後席のシートクッションとに囲まれた部分に空間部を有する自動車用シートにおいて、前記後席のシートクッション内部に、開口部を前記空間部に望む位置に有する格納空間部を設けると共に、この格納空間部に、前記空間部と略同一の大きさに構成されるマットを出し入れ自在に格納してなる技術が開示されている。

## 〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、このような従来技術によれば、確かに、後席の格納空間部に格納したマットを用いて、所謂フルフラットな状態が達成されるものの、後席は、単に、座席としての機能しか有していないものであり、例えば、所謂2シートの2人乗り用として自動車を構成する場合には、この後席を取り外し、専用のフロアを構成する別部材を設けるようにしなければならず、費用のかさむ問題点が指摘されている。

この発明は上述した課題に鑑みなされたもので、この発明の目的は、安価な構成で、後部シートを乗員用と荷物収納用とに選択的に用いることの出来る自動車用後部シート構造を提供することである。

## 〔課題を解決するための手段〕

上述した課題を解決し、目的を達成するため、この発明に係わる自動車用後部シート構造は、開閉蓋またはシートクッションが選択的に取り付けられる一対の凹部を備え、自動車が前席2人後席

有する自動車の車室12内が示されている。即ち、図示するように、この車室12内には、前部シートとして運転席14と助手席16とが備えられ、後部シート10として2人用の座席18、20が備えられている。

以下に、この発明の特徴をなす後部シート10の構成を第2図乃至第3図を参照して説明する。

第2図及び第3図に示すように、後部シート10は、リヤフロア22上の、両座席18、20に夫々対応する位置に凹部24、26を備えている。この凹部24、26は、第3図において断面を取った状態で示すように、その内面をリヤフロア22を構成するフロア鉄板28から直接規定されている。そして、各凹部24、26の起立した後面の上部には、これに選択的に取り付けられるシートクッション30及び開閉蓋32（共に後述する。）を固定するための一対のフック34が固着されている。

また、各凹部24、26の前端縁は、所定幅の水平部分24a、26aを備えるように構成さ

2人の計4人乗り用として使用される際には、前記凹部にシートクッションが取り付けられて、後席が規定され、2人乗り用として使用される際には、開閉蓋が取り付けられて、収納箱が規定される事の特徴としている。

## 〔作用〕

以上のように構成される自動車用後部シート構造においては、自動車が前席2人後席2人の計4人乗り用として使用される場合には、後部シートに形成された凹部にシートクッションを取り付け、乗員席が構成される。一方、自動車が前席2人のみの2人乗り用として使用される場合には、後部シートに形成された凹部に開閉蓋が取り付けられ、この凹部が蓋付きの収納箱として規定されることになる。

## 〔実施例〕

以下に、この発明に係わる自動車用後部シート構造の一実施例の構成を添付図面を参照して、詳細に説明する。

第1図には、この一実施例の後部シート10を

れ、これら水平部分24a、26aには、取付・固定用の透孔24b、26bが各々一対ずつ形成されている。また、各凹部24、26の起立した前端面には、各透孔24b、26bに対応した状態で、シートクッション30を固定するためのビス36が挿通されるビス穴24c、26cが各々一対ずつ形成されている。更に、各凹部24、26の周縁は、所定幅の平坦部分24d、26dを有する段部を備えるように構成されている。

各凹部24、26には、第1図に示すように所謂2/2（ツー・バイ・ツー）の4人乗り用として使用される場合において、後部シート10のすわり座を規定するシートクッション30が各々取り外し自在に嵌入されている。このシートクッション30は、第3図にも示すように、その下部形状を、対応する凹部24、26内に丁度嵌入するように設定されており、前方下面には、対応する一対の透孔24b、26bに夫々上方から挿入される一対の取付体38が下方に突出した状態で一体に形成されている。また、各取付体38の全面

には、これが透孔24b、26b内に完全に挿入された状態において、対応するビス穴24c、26cと対向する位置に、ビス36が螺合するねじ穴40が形成されている。

更に、各シートクッション30は、上述した平坦部分24d、26dに上方から掛止される掛止面30aを周囲に備えており、また、後部の上述したフック34に対応する部分は、このフック34から逃げるための空間を規定するため、起立した状態に形成されている。そして、この後部の起立面には、第4図に示すように、対応する一對のフック34に上方から係止される被係止部材としてのアーム42が取着されている。

このようにシートクッション30は構成されているので、これが対応する凹部24、26内に嵌入された状態で、先ず、アーム42がフック34に係止されると共に、下部が対応する凹部24、26内に完全に嵌入することにより、平面内における位置が保持されることになる。そして、ビス穴24c、26cを介してビス36が挿通され、

の仕切板44の背面44aは、第2図に一点鎖線で示すように、前方に倒し込まれてシートクッション30上に重ねられた状態で、荷室のフロア面Fと面一となるように設定されている。

以上説明したように設定された状態において、この後部シート10において、両座席18、20は、夫々シートクッション30とシートバック48から構成され、2人の乗員の座席として使用されるようになり、この結果、この自動車は、所謂ツー・バイ・ツーの4人乗り用として供せられることになる。

一方、この一実施例においては、シートクッション30は、対応する凹部24、26に対して着脱自在に、また、シートバック48は、仕切板44に対して着脱自在になされており、この自動車を前席のみに着座可能な所謂2座席用(ツー・シート)として使用する場合には、シートクッション30を開閉蓋32に取り換え、シートバック48を取り外すことにより、簡単に改造することが出来ることになる。以下に、自動車をツー・

対応するねじ穴40と螺合することにより、このシートクッション30は、対応する凹部24、26から取り外し不能に固定されることになる。

一方、上述したリヤフロア22の後部には、車体の最後尾にある荷室との間を仕切る仕切板44が下端において軸支機構46を介して回動自在にリヤフロア22に軸支されている。そして、この仕切板44は、上述したように、この自動車がツー・バイ・ツーとして使用される場合において、シートバックホルダとして機能するものであり、この仕切板44の前面であつて、シートクッション30に対応する位置には、背もたれとしてのシートバック48がビス50を介して着脱自在に固定されている。

ここで、この仕切板44には、第1図に示すように、仕切板44を起立した状態にラッチするラッチ機構52が取り付けられており、このラッチ機構52におけるラッチ状態を解除することにより、回動自在に設定されることになる。一方、こ

シートとして使用する場合について説明する。

上述したように、ツー・バイ・ツー用の後部シート10を乗員用として使用する状態から、シートクッション30及びシートバック48を取り外し、第5図に示すように、開閉蓋32を各凹部24、26に取り付け、仕切板44を前方に倒し込むことにより、後部シート10は荷物用として使用される状態、即ち、前席のみに着座可能なツー・シート用に改造されることになる。

即ち、この開閉蓋32は、第5図に示すように、各凹部24、26の上部開口を開放可能に閉塞するよう合成樹脂から形成されており、上述したフック34に係止される所の、上述したシートクッション30のアーム42と同様に形成されたアーム54が固定され、このアーム54とフック34との係止状態を介して対応する凹部24、26に取り付けられる取付部分32aと、この取付部分32aの前端縁にヒンジ32bを介して回転可能に軸支された蓋本体32cとから構成されている。

ここで、この蓋本体32cの先端部の後面には、対応する凹部24、26の水平部分24a、26aに形成された一对の透孔24b、26bに上方から挿入されて解除可能に係止される一对のロック片32dが一体的に形成されている。そして、各ロック片32dの先端には、対応する透孔24b、26bの後端縁における水平部分24a、26aの下面に係止されるロック爪32eが一体に形成されている。

また、蓋本体32cの先端部には、ロック解除用の開口32fが形成されており、この開口32fを介して手を内部に挿入し、この蓋本体32cを前方に引き込むことにより、蓋本体32cは弾性的に変形して、上述したロック片32dのロック爪32eと対応する透孔24b、26bの後端縁における水平部分24a、26aの下面との係止状態が解除され、換言すれば、ロック状態が解除されることになる。

一方、各ロック爪32eの後面には、蓋本体32cを閉じる際に、対応する透孔24b、

26bの後端の上縁に係合する所の斜面が形成されている。このようにして、この蓋本体32cを閉じる際においては、ロック爪32eは、この斜面が対応する透孔24b、26bの後端の上縁に係合して、前方に偏倚されることにより、透孔24b、26bを夫々介してこれの下方に挿入され、対応する透孔24b、26bの後端縁における水平部分24a、26aの下面と係止される、即ち、ロックされることになる。

尚、このように、後部シート10がツー・シート用に設定され、収納スペースとして使用される状態において、仕切板44が前方に倒される場合に、上述したように、シートバック48は取り外されているので、仕切板44の背面と荷室フロアとが面一となるように、上述した軸支機構46にはストツバ機能が付加されている。

このように、この一実施例における後部シート10を荷物の収納スペースとして用いることが出来ることになる。

即ち、この一実施例においては、基本型として

4人乗り用の所謂ツー・バイ・ツーが設定され、各凹部24、26にシートクッション30が取り付けられると共に、仕切板44にシートバック48が取り付けられた状態が設定されることになる。そして、メーカサイドにおいて出荷する際において、または、ユーザサイドにおいて使用する際において、この自動車を所謂ツー・シート用に改造する場合には、単に、シートバック48を仕切板44から取り外し、シートクッション30を対応する凹部24、26から取り外し、このシートクッション30の換りに、開閉蓋32を取り付けることにより、簡単、且つ、安価な状態で、所謂ツー・バイ・ツーからツー・シートのタイプに改造することが出来ることになる。

特に、従来において、ツー・バイ・ツー用の後部シート10とツー・シート用の後部シート10とを別々に製造し、組み立てていた状態と比較して、この一実施例のように、ツー・バイ・ツーとツー・シートとの共通部品としての凹部30及び仕切板44とを設定しているの、これら部品の

共通化に伴ないこれらを製造するための型費等、その費用を削減することが出来、改造に掛る費用の低廉化を達成することが可能となる。

この発明は、上述した一実施例の構成に限定されることなく、この発明の要旨を逸脱しない範囲で種々変形可能であることは言うまでもない。

例えば、上述した一実施例においては、後部シート10に備えられた一对の凹部24、26には、共にシートクッション30が装着されるか、または、共に開閉蓋32が取り付けられるかして、所謂ツー・バイ・ツーのタイプか、ツー・シートのタイプかが選択的に設定されるよう説明したが、このような使用状態に限定されることなく、第6図に他の使用態様として示すように、例えば、後部シート10における右座席18は乗員用として使用すべく、対応する凹部24にはシートクッション30が装着され、左座席20は荷物収納用として使用すべく、対応する凹部26には開閉蓋32が取り付けられるように設定しても良いことは言うまでもない。

また、上述した一実施例においては、仕切板44を1枚の部材として構成するように説明したが、この発明は、このような構成に限定されることがなく、例えば、左右2分割とし、夫々独立に回転可能、即ち、倒し込み可能に構成しても良いことは言うまでもない。

#### 【発明の効果】

以上詳述したように、この発明に係わる自動車用後部シート構造は、開閉蓋またはシートクッションが選択的に取り付けられる一対の凹部を備え、自動車が前席2人後席2人の計4人乗り用として使用される際には、前記凹部にシートクッションが取り付けられて、後席が規定され、2人乗り用として使用される際には、開閉蓋が取り付けられて、収納箱が規定される事を特徴としている。

従つて、この発明によれば、安価な構成で、後部シートを乗員用と荷物収納用とに選択的に用いることの出来る自動車用後部シート構造が提供されることになる。

22…リヤフロア、24；26…凹部、24a；26a…水平部分、24b；26b…透孔、24c；26c…ビス穴、24d；26d…平坦部分、28…フロア鉄板、30…シートクッション、30a…掛止面、32…開閉蓋、32a…取付部分、32b…ヒンジ、32c…蓋本体、32d…ロック片、32e…ロック爪、32f…開口、34…フック、36…ビス、38…取付体、40…ねじ穴、42…アーム、44…仕切板、44a…背面、46…軸支機構、48…シートバック、50…ビス、52…ラッチ機構、54…アームである。

特許出願人      マツダ株式会社  
代理人    弁理士      大塚康徳（他1名）



#### 4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明に係わる自動車用後部シート構造の一実施例が適用される車室内の構成を示す斜視図；

第2図は後部シート構造を、所謂ツー・パイ・ツーの4人用として使用する場合の構成を示す断面図；

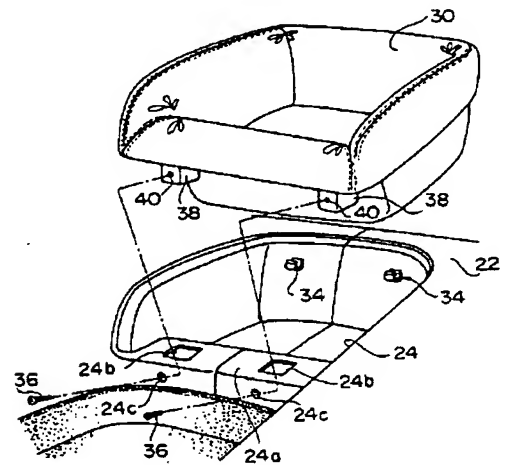
第3図は凹部からシートクッションを取り出した状態を示す分解斜視図；

第4図はシートクッションを独立した状態で背面から示す斜視図；

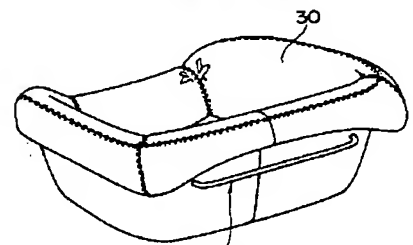
第5図は後部シート構造を、所謂2シートの2人用として使用する場合の構成を示す断面図；そして、

第6図は後部シート構造を、右側を乗員用として、左側を収納用として別々に構成する場合の使用態様を示す斜視図である。

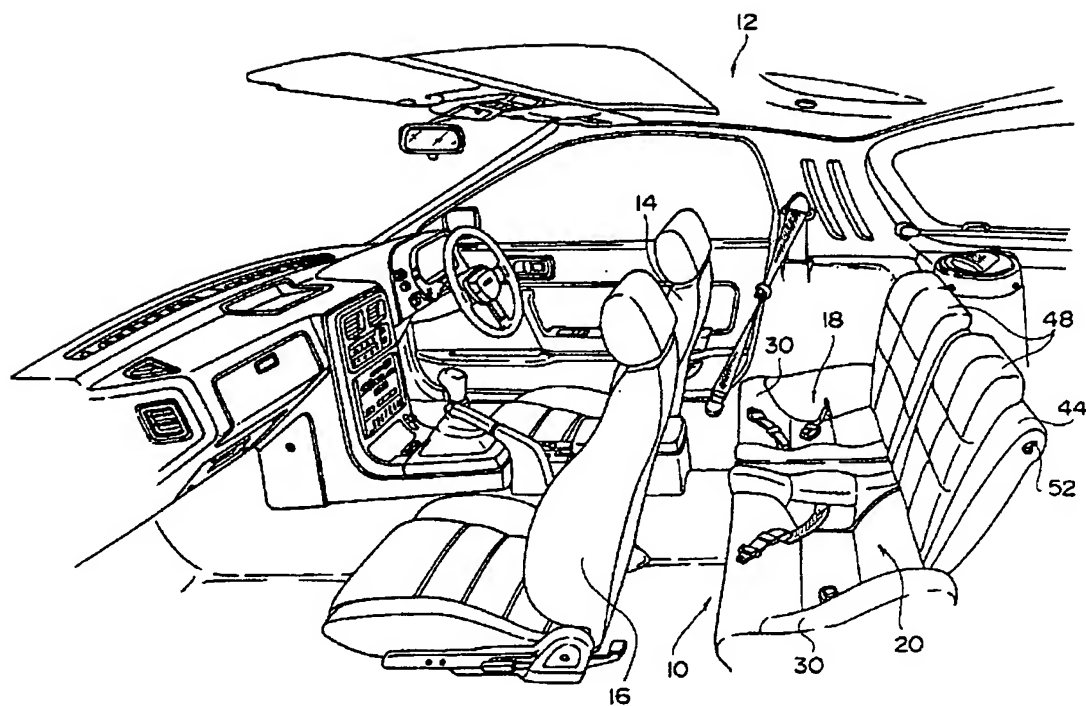
図中、10…後部シート、12…車室、14…運転席、16…助手席、18；20…後部座席、



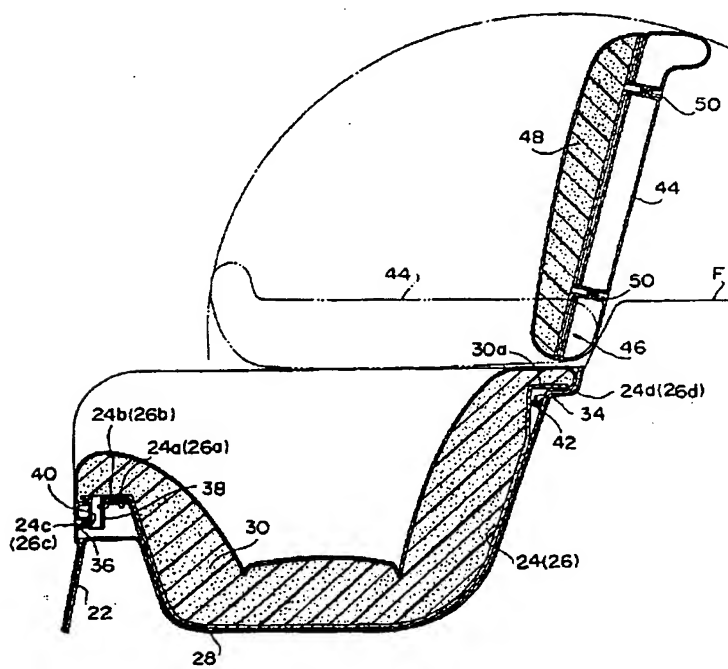
第3図



第4図

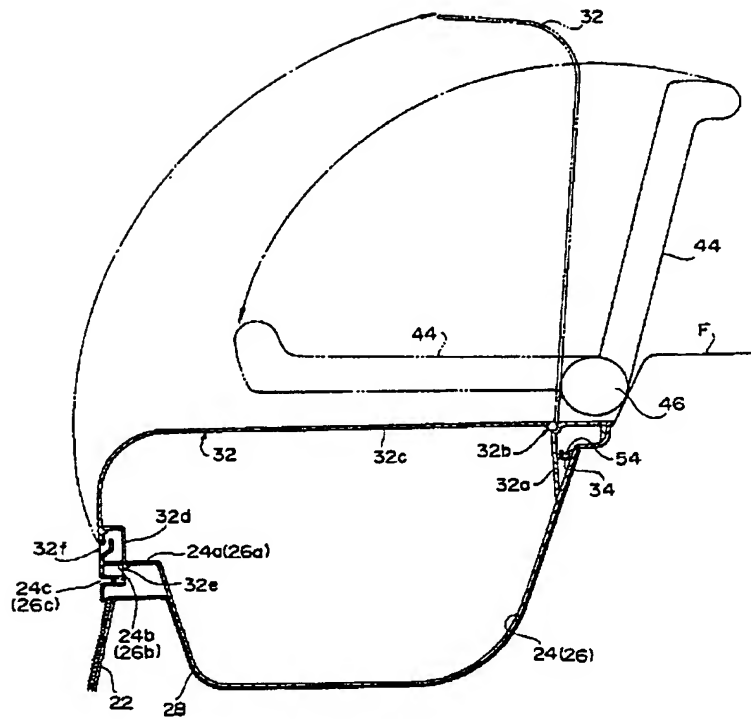


第 1 図

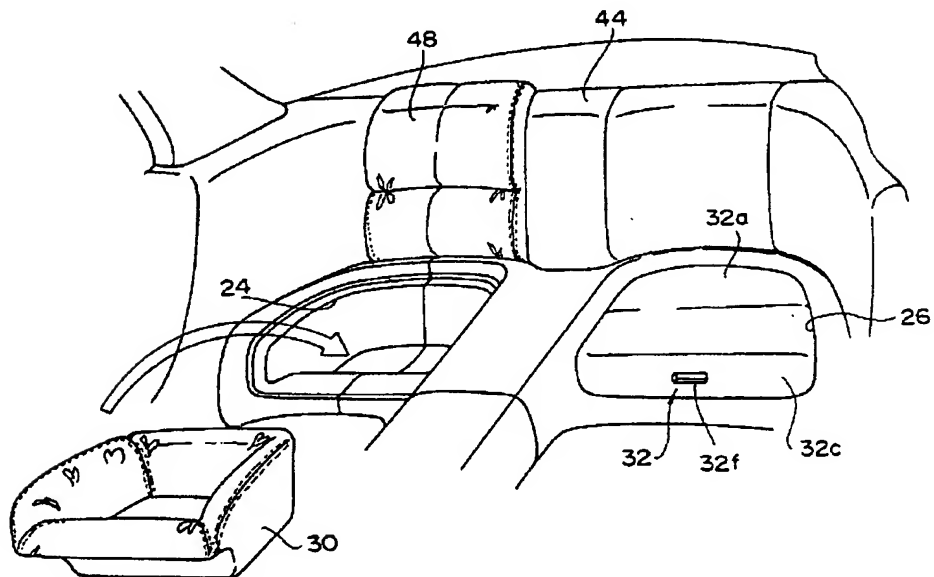


第 2 図





第 5 図



第 6 図